

# ピンポイント草地更新技術とは？

牧草地は、8～10年周期で、草地更新が必要ですが、その間にも、雑草の侵入や、天候・野生動物等の影響により、部分的に草地の品質や収量が低下してしまいます。  
こうした部分的な草地の劣化を省力的・低コストに改善し、ほ場全体の生産性を向上させる技術が、このピンポイント草地更新です。




人力で雑草や裸地を確認して  
除草材散布や播種したものを  
ICT機器の活用で省力化できないか？


## ① 草地の画像を雑草検出アプリ又は分析機関へ

一株単位で検出  
1日に撮影できる面積  
100haまで

ドローン

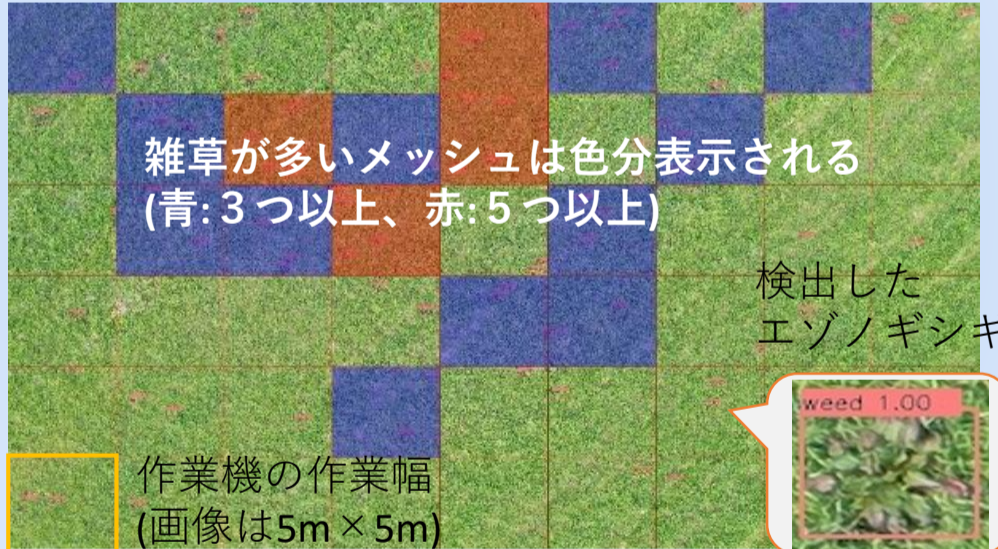


衛星



一度に千ha診断  
ドローンより  
診断精度は粗い

## ② 雑草を検出し、作業機の幅に合わせて圃場マップを作成

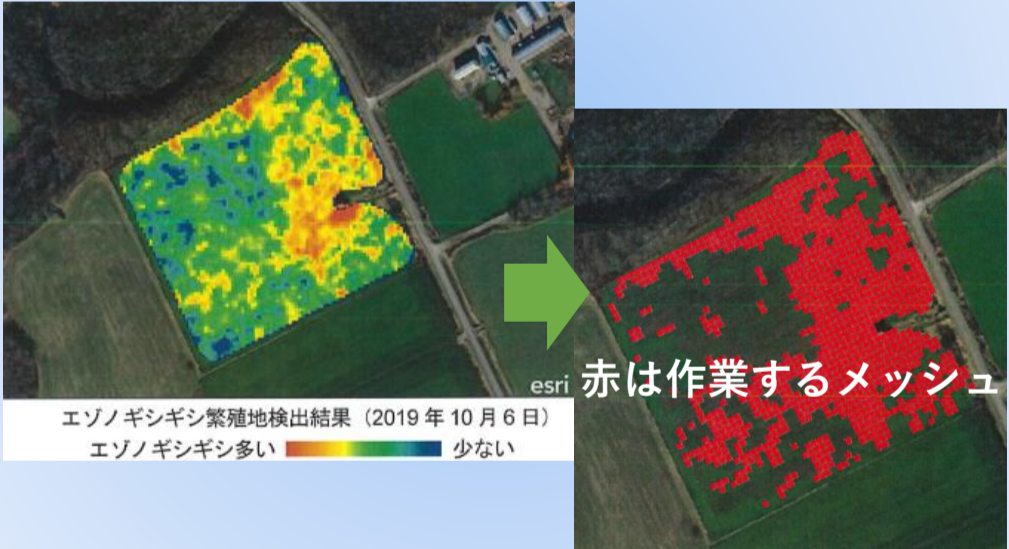


雑草が多いメッシュは色分表示される  
(青:3つ以上、赤:5つ以上)

検出した  
エゾノギンギシ

weed 1.00

作業機の作業幅  
(画像は5m×5m)



esri 赤は作業するメッシュ

エゾノギンギシ繁殖地検出結果 (2019年10月6日)  
エゾノギンギシ多い ← 少ない

## ③ 圃場マップをスマート農業機械に連動させて

### ピンポイントでの除草・播種



ドローン



ラジコンヘリ



農業用無人作業車



ブームスプレーヤー



播種時







作溝播種機



ギンギシ  
枯れて裸地に

裸地に溝を掘って  
播種することで  
雑草の侵入スピードを  
遅らせることが可能